



～ここは東京丸の内にある運用会社「一寸アセットマネジメント」～
今日も“ちょっと”気になる巷の出来事が話題
一寸アセットマネジメントのとある一日
「GDPって難しい？」 (第60号)

ここは東京丸の内の運用会社（一寸アセットマネジメント）のある日の昼休み。
マルチリサーチ部のメンバーは、日頃“ちょっと”気になる出来事で雑談中です。

・今日の雑談メンバー

O部長・・・運用から営業まで、この道ひと筋30年の大ベテラン。仕事のみならず家事も大得意。

N課長・・・運用経験あり。人脈が広く、あらゆる情報をキャッチ。気になるワードはメモに書きとめる。

B係長・・・ワーキングマザー。仕事と子育て・家事の両立に奮闘中。趣味は食べ&飲み歩き。

O部長



先日公表された2018年4～6月期の日米のGDP(国内総生産)は概ね堅調な結果だったようだね。前期比の年率換算で米国が+4.2%、日本が+3.0%ってなかなか良好な数値だよな。

B係長



GDPは同じ期間の数値が何度も公表されているので、混乱してしまいます。気付いたら数値が修正されていたなんてこともあり、リサーチ担当者『あるある』だと思います。

N課長



確かに、日本では1次速報、2次速報が四半期終了後のタイミングで公表されていますね。マスコミでは速報値、改定値などと呼びます。最終的なデータは年度終了後となります。

O部長



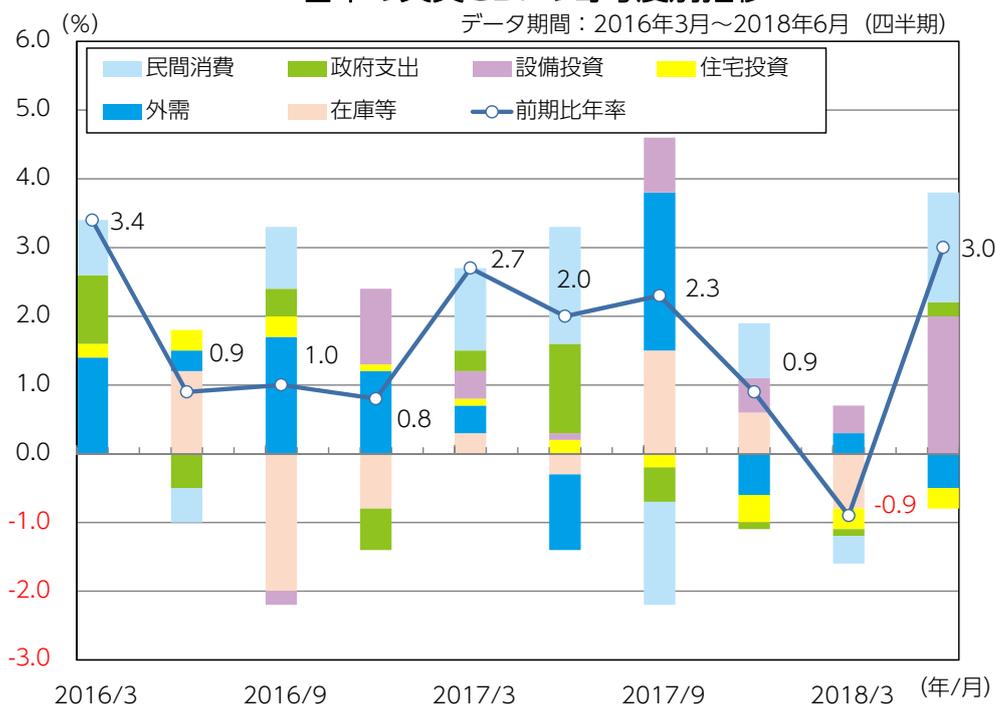
米国も3段階(速報値・改定値・確報値)公表され、四半期終了後約1～3ヵ月後に順次公表されるよね。

N課長



投資家に注目されるのは、最も早いタイミングで公表される数値ですね。エコノミストなどの事前予想との違いにも注目が集まります。

日本の実質GDPの寄与度別推移



出所) 内閣府のデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

なるほど～。4～6月期で言えば日本は設備投資がプラスに寄与して、米国は個人(民間)消費が好調だったことが数値を押し上げているということですね。



米国のGDP成長率の各項目の寄与度を見てみると、個人(民間)消費が好調な分、在庫が減少してマイナスに寄与しているみたいですね。



え?! 在庫が減っているということはよく売れているってことなので、プラス寄与で、逆に、在庫が膨れ上がることが、売れ残りだからマイナス寄与ってことじゃないのですか?



○部長



一般的にGDPは国内で生産された付加価値の総額と言われているから、在庫が増加ということは商品(付加価値)が生産されているわけだから、プラス寄与になるんだよ。

N課長



たくさん作って在庫を増やし、それを売ることができればいいのですが、米国の在庫減少は、良好な経済環境の中、人手不足等で生産が追いつかないという側面もあるのかもしれない。

B系長



同じ在庫が減るにしても、消費が伸びず、在庫調整の一環で生産を止める場合もあれば、消費が伸びて売れているのだけど、生産面の制約で在庫が減るということもあるのか。

○部長



消費が好調なので企業としては在庫を積み増して、スムーズに販売したいところだけど、人手不足、賃金も上昇、材料価格も上昇しているから経営側も大変だね。

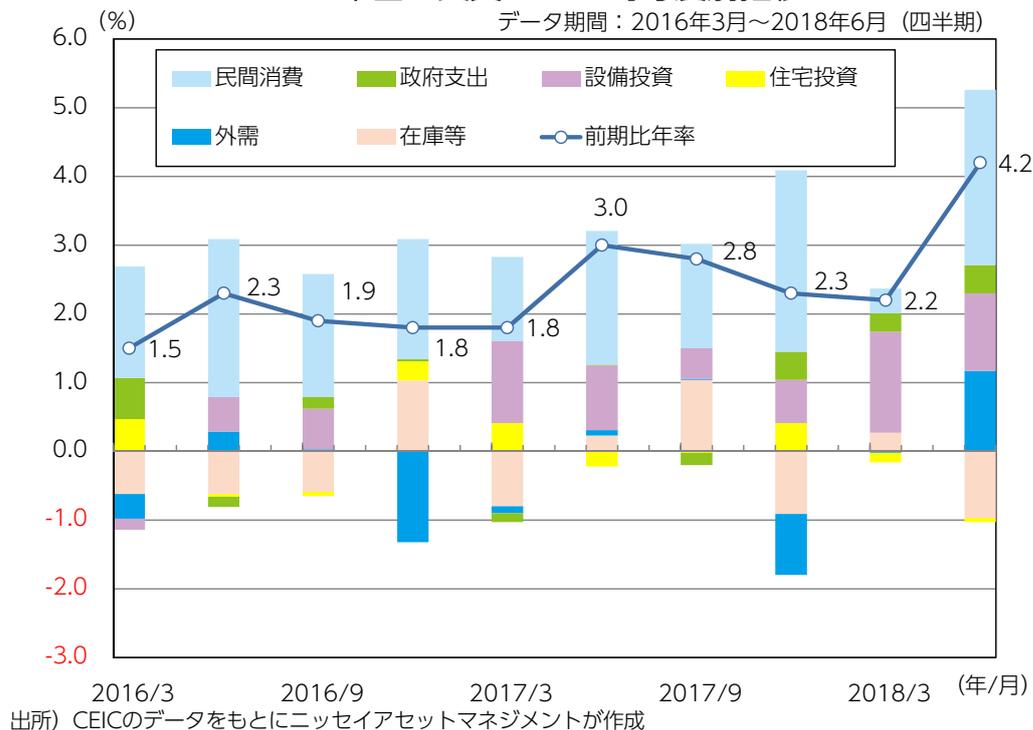
B系長



景気循環の過程で在庫の増減は繰り返すもののようなのですが、私の仕事の『在庫』減少はいつこうに進みません(苦笑)

米国の実質GDPの寄与度別推移

データ期間：2016年3月～2018年6月（四半期）



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>